

## 鉛の食品健康影響評価の進め方

有害影響と血中鉛濃度との関係を示す個々の論文（資料 2）を確認

（確認する際の視点）

①疫学調査（試験系）

調査地域、調査人数、性別、曝露時期（胎児、乳幼児、成人等）、曝露経路、測定（採血）時期、曝露指標（血中鉛濃度、骨中鉛濃度等）、影響指標（中枢神経系：IQ、末梢神経系：神経伝達速度等）

②論文の結果

曝露時期と測定時の同一性、血中鉛濃度、交絡因子調整（有無、内容）、影響（所見、対照群との比較）、NOAEL/LOAELの有無、論文作成年、海外評価機関引用状況

③論文の結論

④論文内容に対する評価（妥当性、判定等）

評価を行う上で特に重要と考えられる論文の選定基準が明確化

（選定基準例）

① 交絡因子調整

② 複数時期の血中鉛濃度測定：母体血、臍帯血、新生児期、乳児期、幼児期

③ 一般環境：社会経済的な影響、汚染された高曝露地域

④ 論文作成年 等

重要論文の選定基準を踏まえた総括レビュー（小児、成人）

総括レビュー内容を踏まえ、エンドポイント選定の議論